

戦争と偽情報には密接な関係がある。戦争という極限状態において、情報操作、特に誤情報や偽情報の活用は、戦争の勝敗を左右させる可能性がある。そして、現在の偽情報を発信する主流は SNS となっているが、過去の戦争ではラジオや電報を使って偽情報を発信していた。本研究は、シリア内戦とロシア・ウクライナ戦争を比較することで、現代の技術革新を踏まえた偽情報の歴史的変化とその影響を明らかにすることを目的としている。

シリア内戦では、戦争に Facebook や X などの SNS が使用され始めたため、一般市民も瞬時に映像や投稿を発信・受信可能な状況となり、反体制派・市民ジャーナリストによる情報共有が活発化した。その結果、SNS を用いた偽情報・誤情報の拡散も生じやすかった。さらに、独立した報道機関や信頼できる情報源が十分に確立されておらず、「誤情報」や「偽情報」という言葉も浸透していないため、その中に含まれている偽情報を鵜呑みにしてしまった。ロシア・ウクライナ戦争では、戦争が起こった 2022 年は情報伝達の手段が豊富であった。デジタル社会と言われている現代は、特にインターネットや SNS が発達している。国家がファクトチェックを行ったとしたウェブサイトにも偽情報が含まれていたり、世界中のインフルエンサーがそれぞれのフォロワーに向けてリポストしたりすることで、偽情報のスピードと量が格段に増えた。同時に、SNS での情報発信で情報源が豊富となり、X での偽情報にはコミュニティノートと呼ばれる、誤解を招く可能性があるポストに、ユーザーが協力して役に立つノートが追加された。

このことから、現在は SNS でも、より正確な情報を入手できるようにすることを目的に作られた機能が提供され、信頼できる情報源の多さから偽情報の拡散が抑えられ、偽情報の訂正が迅速である。そのため、偽情報による社会的影響に関しては、結果として「私たちに与えた影響はシリア内戦のほうがロシア・ウクライナ戦争の時よりも大きい」仮説は立証された。